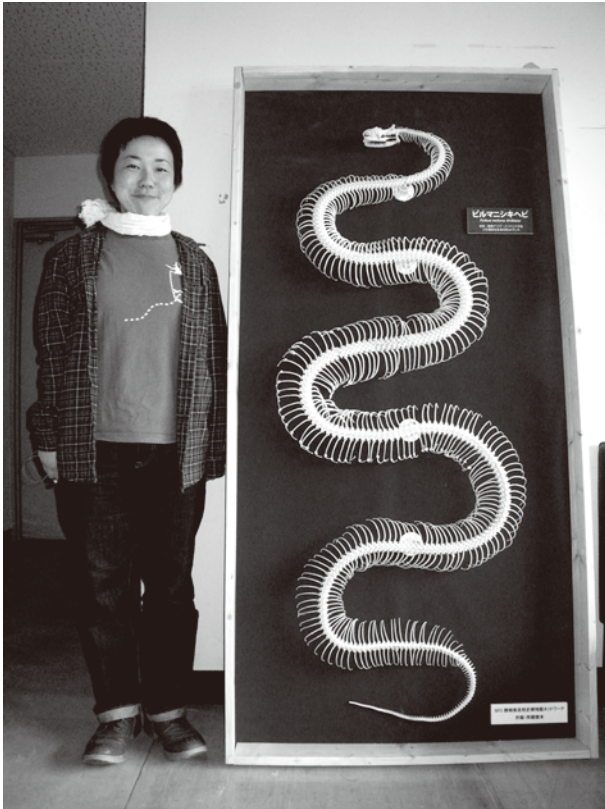


激闘！駿河ほねほね団 vs ビルマニシキヘビ

ほねほね団員 石川章子



完成した大きなビルマニシキヘビの骨格標本

2012年10月中旬、動物商で死んでしまった全長420cmもある大きなビルマニシキヘビを譲り受け、骨格標本を製作することになりました。

私が携わったのは、剥皮後の背側筋肉の除肉と仕上げの整形です。発達した背中の筋肉を剪刀で断ち、スクレーパーで取り除いていくのですが、繊維が硬くてなかなか刃が立ちません。ですが最初から薬品（塩素系漂白剤）で一気に溶かそうとすると、細い肋骨は取れてしまいます。肋骨約270対がほぼ相似形なので、たくさん取れてしまったら、それこそ難解なパズルです。4mを超える長さ故、どの作業においても一度に多くは進みません。塩素系漂白剤を使用して、残った肉を溶かしていくにも、全体を漬けられるバットがないので、一部ずつ浸しながら、毎日少しずつコツコツと根気よく進めていきました。きれいな骨にするのに、1か月以上かかってしまいま



ほぼ溶かし終えた骨格標本の全体

した。

出来上がった骨の整形も大変です。一畳の板いっぱいにくねらせて全体の形を作り、肋骨の間を一本一本均等に整え、針で固定していきます。よく見ると肋骨に骨折した箇所があります。一体ヘビに何が起きたのでしょうか。単調な作業が続く中、骨の状態から生きていた頃を想像したりしながら、骨と向き合いました。

出来上がった骨格標本はとても迫力のあるものとなり、1月の東海大学自然史博物館へ貸し出しての干支の展示は大変好評を博しました。

自然学習資料センターには、ビルマニシキヘビの他にも、ミドリニシキヘビ、アオダイショウ、マムシなどの骨格標本があります。これからも、駿河ほねほね団はヘビに限らず色々な骨格標本に挑戦していこうと思っています。